

平成23年5月10日

-----  
**第14回「信用金庫社会貢献賞」の受賞活動決まる！**  
**「地域産業・文化活動等活性化への取り組み」の**  
**空知信用金庫（北海道）が会長賞に**  
-----

社団法人 全国信用金庫協会

全国信用金庫協会（会長：大前 孝治）が実施している、信用金庫業界の顕彰制度第14回「信用金庫社会貢献賞」の受賞信用金庫、個人受賞者がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

**第14回「信用金庫社会貢献賞」受賞活動**

賞の種類	信用金庫名（都道府県）	受賞活動名
会長賞	空知信用金庫（北海道）	地域産業・文化活動等活性化への取り組み
Face to Face 賞	きのくに信用金庫（和歌山県）	「お年寄りにやさしい信用金庫」をめざして
	遠賀信用金庫（福岡県）	地域共生～「暮らしのあんしんコーナー」
特別賞	多摩信用金庫（東京都）	「多摩・武蔵野検定」への取り組み
	いちい信用金庫（愛知県）	「ホタルの庭」の造園・開放・観賞会
地域活性化しんきん運動・優秀賞	愛媛信用金庫（愛媛県）	地域振興としての「まさき村」の創業支援
	(社)兵庫県信用金庫協会（兵庫県）	川上・川下ビジネスネットワーク事業
個人賞	一関信用金庫（岩手県） 阿部 一夫 氏	地元小学校への吹奏楽指導
	十三信用金庫（大阪府） 井垣 六郎 氏	障がい者スポーツの発展・普及活動

本賞は、地域に生まれ、地域とともに歩む信用金庫が、さまざまな分野で地域貢献・社会貢献活動を実践している真摯な姿を多くの方々に知っていただくとともに、地域における存在価値を一層高めていくことを目的に、平成9年に創設いたしました。このような、地域に根ざした永年にわたる信用金庫の地道な活動に光を当て、これを顕彰することは大きな意義があると考えております。

今回は、昨年11月から本年1月までの募集期間に、156信用金庫・関係団体から460件の応募がありました。その活動内容は多岐にわたっており、環境保全や社会福祉、金融教育支援、高齢化社会への対応のほか、地域活性化への取り組み、次世代経営者の育成、取引先の販路拡大策など、どれも地域に根ざした信用金庫の不断の努力と叡智を結集したものとなっています。選考委員会での厳正な審査の結果、会長賞をはじめとする受賞6信用金庫と1信用金庫協会、個人受賞2名の活動が決定いたしました。なお、来る6月22日（水）開催の第128回全信協通常総会において表彰式を執り行う予定です。

私ども信用金庫業界では、このたびの東日本大震災により被災された皆さまのために、救援物資の配送、避難先での預金代払い、全国信用金庫の役職員募金、皆さまからの義援金お取扱いをはじめ、様々な支援活動に取り組んでおります。今後とも、地域の皆さまのために全力を尽くして参る所存ですので、信用金庫に対するご理解、ご支援を賜われますよう、よろしくお願いいたします。

-----  
 <参考> 第14回「信用金庫社会貢献賞」応募状況

地区別応募状況

地区名	金庫・団体数	応募件数
北海道	14	36
東北	13	33
関東	23	57
東京	12	42
北陸	7	16
東海	27	91
近畿	28	111
中国	8	17
四国	4	10
九州北部	7	18
南九州	8	24
団体	5	5
合計	156	460

活動分野別応募状況

活動分野	応募件数
地域社会活動	248
スポーツ	49
社会福祉	33
芸術・文化	28
教育	36
環境	50
健康・医学	6
国際交流	3
史跡・伝統文化保存	5
災害支援	1
学術	1
合計	460

本件についてのお問合せは、全国信用金庫協会 広報部 小西、服部、磯、 <sup>とがわ</sup> 兎川、山本 (TEL.03-3517-5722 FAX.03-3517-5792)までお願いいたします。
---

## 第14回「信用金庫社会貢献賞」の選考総評と受賞活動の概要

### 1. 選考総評 被災地支援のためにも元気と経済発展を

#### 選考委員 松岡紀雄氏（神奈川大学名誉教授）

最終審査会は、東日本大震災の直後に開かれた。巨大津波に襲われた被災地のあまりの惨状や、原発事故で避難を余儀なくされた人々の苦しみを思うとき、小さな地域における社会貢献にどれほどの意味があるのかと、虚しさを覚えたかもしれない。しかし、今回のような災害は、いっどこで起きても不思議ではない。被災地の方々から改めて教えられるのは、同じ地域に住む人々の日頃からの思いやり、助け合いの大切さである。加えて、東日本の復興を支援するためにも、その他の地域の元気と経済発展が欠かせない。全国の信用金庫の地域を「つなぐ力」の真価が問われているとき、と言っても過言ではない。

第14回の**会長賞**に輝いたのは空知信用金庫の「地域産業・文化活動等活性化への取り組み」である。優れた新商品を開発した地元企業や、地域文化の向上に貢献した団体・個人を表彰して助成金を贈呈するという地味な活動だが、1987年以来24回を数えている。地域の力を掘り起こす長年にわたる努力と、その活動のために設けた基金が、北海道の金融機関として初めて「公益財団法人」の認定を受けた点も評価された。

**Face to Face 賞**には、きのくに信用金庫の「『お年寄りにやさしい信用金庫』をめざして」が選ばれた。「高齢者の暮らしに安心や安全を提供するお年寄りにやさしい信金」のブランド化をめざすという、高齢化社会を見据えた取り組みである。一人暮らしの年金受給者を毎月1回訪問する「一声運動」などを展開している。人命救助につながったという事例も報告されているが、信用金庫のイメージアップはもちろん、業績の向上にも確かな貢献をしているに違いない。

遠賀信用金庫の「地域共生～『暮らしのあんしんコーナー』」も選ばれた。全店舗に設けたコーナーでは、金融相談ばかりでなく、電球の付け替えや迷子犬の相談にまで行っているというから驚きである。取引の有無に関係なく無料で応じ、場合によっては弁護士や専門家に相談して対応している。各方面から注目され話題になっていることから、これまた地域の頼りになる金庫として、業績アップにもつながっているはずである。

**特別賞**には、多摩信用金庫の「『多摩・武蔵野検定』への取り組み」が選ばれた。地域の魅力を発見し、地域への愛着を持ってほしいという願いから始まった、いわゆるご当地検定である。30市町村、7商工会議所、72の大学の総力を結集しようというのだから、そのスケールは大きい。

いちい信用金庫の「『ホテルの庭』の造園・開放・鑑賞会」も選ばれた。人為的にホテル鑑賞の場を設けることは、遺伝子汚染や生態系破壊の点から問題視されているが、このプロジェクトでは細部にわたって周到的配慮がなされ、地域の人々の共感を得ている点が評価された。

**地域活性化しんきん運動・優秀賞**に選ばれたのは、愛媛信用金庫の「地域振興としての『まさき村』の創業支援」である。大型ショッピングセンターの進出で地域の零細商店が閉鎖に追い込まれる例は枚挙に暇がないが、ここでは大型店の、いわば軒先を借りて地

産地消のショップを開店した。中小企業診断士の資格ばかりか、スーパーに勤務経験のある信用金庫職員を派遣して、短期間で軌道に乗せた点は高く評価される。

(社)兵庫県信用金庫協会の「川上・川下ビジネスネットワーク事業」は、国からの受託事業を発展的に継承したもので、県内の全 11 信用金庫、信金中央金庫神戸支店に、神戸商工会議所その他多くの経済団体も巻き込んで戦略的に取り組み、具体的な成果を挙げている点が高く評価された。

**個人賞**の阿部一夫氏（一関信用金庫）は、地元小学校での楽器掃除に始まって、廃止の危機にあった吹奏楽を再興、指導を続けている。

井垣六郎氏（十三信用金庫）は、手話通訳に始まって、視覚障がい者のマラソン伴走、ふうせんバレー、全国障がい者スポーツ大会等々、障がい者スポーツ全般に深く関わっている。

## 2. 受賞活動の概要

### 【会長賞】

#### 空知信用金庫（北海道）／地域産業・文化活動等活性化への取り組み

空知信用金庫は、地域産業と文化活動の振興を図る目的で(財)空知しんきん産業文化振興基金を設立し、優れた新商品・技術等を開発した地元企業や、地域文化の向上に貢献した団体・個人に対して、昭和 62 年より毎年、表彰を行うとともに、助成金を贈呈しており、平成 22 年度で 23 回目を迎えた。

また、平成 22 年 12 月には北海道で 15 番目、金融機関関連では第 1 号として、公益財団法人の認定を受けている。

表彰部門は、①産業技術部門（2 団体）、②文化部門（4 団体）、③地域振興部門（3 団体）（平成 9 年より創設）があり、助成金として、計 120 万円程度が贈呈されている。

表彰助成事業のほか、研修活動や研修受講費用の助成を通じて人材育成を支援する、人材育成事業も行っており、平成 21 年度にはパソコン講習会、平成 22 年度には新入社員研修会なども開催している。

---

### 【Face to Face 賞】

#### きのくに信用金庫（和歌山県）／「お年寄りにやさしい信用金庫」をめざして

きのくに信用金庫が合併（3 金庫）した平成 5 年 11 月当時、和歌山県で高齢化が進み、県の総人口に占める高齢者の割合は 16.5%となっていた。

このため、同金庫の理念でもある「地域と共に歩み、地域社会に貢献したい」を実行するために、「高齢者の暮らしに安心や安全を提供するお年寄りにやさしい信金」のブランド化をめざして活動を開始した。

平成 10 年より、「一声運動」として、一人暮らしの年金受給者を毎月 1 回得意先係が訪問し、一声をかける運動を実施しており、これは、一人暮らし先の安否確認も兼ねている。また、同じく平成 10 年より、「龍神の自然水プレゼント」として、毎年 9 月を敬老月間と定め、90 歳以上の年金受給者の長寿を祝って、メッセージと干支を入れた短冊を添えて、龍神の自然水を贈呈している。このほか、毎年、お年寄りに優しい活動が特に顕著な職員に対しての表彰を行っている。

## 【Face to Face 賞】

### 遠賀信用金庫（福岡県）／地域共生～「暮らしのあんしんコーナー」

遠賀信用金庫では、金融相談のみならず、電球の付替えや迷子犬の相談など、身の回りのあらゆることについて相談を受け、解決していこうとの考えから、平成16年10月に「暮らしのあんしんコーナー」を設置した。

設置当初は、本店内に同コーナー専用窓口と専用のフリーダイヤルを設置したのみであったが、平成17年には、全店舗に同コーナーのステッカーやチラシを備え置き、金庫をあげて相談に対応できる体制とした。相談については、取引の有無に関わらず無料で応じており、金庫での対応が困難な案件は、弁護士等専門家に相談して対応している。

平成22年4月には、婚活の相談を受け仲介した縁談が成就したことが雑誌に掲載されるとともに、福岡財務支局主催のフォーラムで事例発表を行ったほか、テレビやラジオ等マスコミからの取材を受けるなど、同コーナーに対する関心は高まっている。

---

## 【特別賞】

### 多摩信用金庫（東京都）／「多摩・武蔵野検定」への取り組み

多摩信用金庫では、多摩の魅力を再発見し、地域への愛着を持ってもらいたい、30市町村・7商工会議所・72の大学を有する多摩地域の力を結集して基礎自治体の垣根を越えた協働事業を行い、地域の課題解決活動を行いたいと考えていた。

同検定の主催者である(社)学術・文化・産業ネットワーク多摩は、多摩地域の産学官により組織されている団体である。その常任幹事である同金庫職員の提案により、平成18年より、多摩地域の歴史や文化をテーマにしたご当地検定「知のミュージアム 多摩・武蔵野検定」（愛称：タマケン）が実現。現在も職員1名をネットワーク多摩に派遣し、検定の企画や運営にも携わっている。また、ネットワーク多摩や地元の大学、行政との連携により、平成20年4月には『多摩・武蔵野検定公式テキスト』を刊行している。

同検定は、幅広い年齢層が受検しており、また、地元企業の新入社員が団体で受検するなど、ご当地愛の育成へ成果を挙げつつある。

## 【特別賞】

### いちい信用金庫（愛知県）／「ホテルの庭」の造園・開放・観賞会

いちい信用金庫は、“人にやさしい、環境にやさしい”をコンセプトとした本店を平成20年に新設した際に、同金庫の環境への取り組み姿勢をPRすべく、清浄な環境のシンボルであるホテルが棲む庭を造園した。

この取り組みは平成18年から始まり、地元のホテル愛好家との連携や、ホテルに関する勉強会を開くなど苦労を重ね、平成19年6月の仮オープンから、平成22年12月までに4回の観賞会が行われ、子供からお年寄りまで、延べ6800名超が観賞会に参加した。また、ホテルの庭に隣接する資料室では、ホテルの生態を知ってもらうため展示パネルやビデオ放映を行っており、庭内観賞者に対して学習の機会を提供している。

これからも、ホテルの庭観賞会を通じて 環境への取り組みを大切にしていくこととしている。

---

## 【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

### 愛媛信用金庫（愛媛県）／地域振興としての「まさき村」の創業支援

愛媛信用金庫では、平成20年7月に地元商工会より、地元のショッピングセンター内に地産地消ショップ「まさき村」を建設するため、応援してほしいとの相談を受けたことから、地域振興・創業支援の観点から協力することとし、同年9月に同金庫から中小企業診断士の資格を持ち、長年地元のスーパーに勤務経験のある職員を専担として派遣した。

専任職員は、開設準備委員長として立ち上げに加わり、店長・副店長の採用と教育を終え、平成21年6月末まで10ヵ月間にわたり支援活動を行った。各支店でもこれらの活動を応援するため、金庫本部で支店長・役席の勉強会を開催し、これが契機となり、各支店の得意先から出品に結び付いたケースもあった。

「まさき村」は平成21年10月にオープンし、ショッピングセンターから若いお客さまが訪れるなど、ショッピングセンターとの相乗効果を発揮している。

## 【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

### (社)兵庫県信用金庫協会(兵庫県) / 川上・川下ビジネスネットワーク事業

(社)兵庫県信用金庫協会が推進する「川上・川下ビジネスネットワーク事業」とは、川上企業である中小企業のビジネスシーズ(技術やノウハウ)と、川下企業である大企業や中堅企業のニーズとのマッチングを図るとともに、川上企業への経営支援を行い、ビジネス成果の創出を目的とする事業である。

本事業の主催者は、委託者の(社)兵庫県信用金庫協会、受託者の公益財団法人神戸市産業振興財団、共催者の神戸商工会議所の3者であり、兵庫県下の信用金庫グループが資金面および事業推進面の両面で主導的役割を果たしながら参画している。

また、実際の活動には、兵庫県下の全11信用金庫と信金中央金庫神戸支店、大手企業の技術者OB約750名で構成される一般社団法人関西産業活性協議会のほか、近畿経済産業局、(独)中小企業基盤整備機構、フューチャーベンチャーキャピタル(株)など中小企業支援機関が参画し、主催者と一体となって積極的に取り組んでいる。

---

## 【個人賞】

### 一関信用金庫(岩手県) 阿部 一夫 氏 / 地元小学校への吹奏楽指導

阿部氏は、吹奏楽経験を活かし平成8年に一関市立巖美小学校へ楽器清掃を申し出て以来、15年まで年一回トランペットの分解掃除を行っていた。平成16年、同校校長より、「学校に眠っている金管楽器を活用し、子ども達にトランペット鼓隊の指導をお願いしたい」との依頼を受けた。同氏は、「社会教育の一環として地元に貢献できることなら」との思いで快諾し、同年11月より、金管バンド「巖小ブラス」を立ち上げ、毎週土曜日に本格的な指導を開始した。

平成18年4月、岩手県吹奏楽連盟に加盟し、阿部氏が同ブラスの顧問に登録されて以来、学校を代表し会議に出席するほか、学校行事や対外演奏、慰問演奏等を実施。同年12月の初出場から22年まで一関地区小学校の部アンサンブルコンテストにて連続入賞している。

## 【個人賞】

### 十三信用金庫(大阪府) 井垣 六郎 氏 / 障がい者スポーツの発展・普及活動

井垣氏は、平成10年から大阪の手話サークル「つくし」において手話を学び、全国わたぼうし音楽祭の手話通訳として活躍後、平成11年8月、厚生労働省所管の(財)日本障害者スポーツ協会より、初級障がい者スポーツ指導員の認定を受けた。平成18年からは、健常者と障がい者が分け隔てなくスポーツする「ノーマライゼーション陸上スポーツ大会」等の審判員を務め、平成21年に同協会より上級スポーツ指導員の認定を受けた。

また、平成17年には、障がい者と一般の人が共にスポーツを楽しむことのできる「ふうせんバレー」の実行委員として、審判部長を務めながら、「ふうせんバレー」の普及活動を、近畿2府4県と神戸市、大阪市、京都市の各市で行い、現在60チームが登録するまでとなり、この普及活動はNHKニュースでも放映された。

以上

## <参 考> **第14回「信用金庫社会貢献賞」について**

**【創設目的】** 地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとするとともに、地域での存在感を一段と高めていく。

**【対象活動】** 信用金庫にふさわしい地域に根ざした活動で、地域振興、社会福祉、芸術・文化支援、史跡・伝統文化保存、交通安全、教育支援、環境保全、各種ボランティアなどの地域社会活動および災害救援等の分野とする。

**【表彰対象】** ・信用金庫および信用金庫役職員（個人・グループ）  
・地区・府県信用金庫協会、中央団体

**【選考基準】** 活動の継続性（3年以上継続された活動であること。ただし、特別賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞は除く）、活動目的の社会的意義、地域との一体性（地域に溶け込んだ地域の方々とは一体となった取り組み）、活動の困難度、援助を受ける側の評価、感謝の度合い、関係者または地域社会に与えた影響、活動内容・方法のユニークさ、などを総合的に判断する。

**【応募期間】** 平成22年11月1日から23年1月31日まで

**【選考委員】** ※所属等は平成23年4月現在、敬称略

榎野	信治	読売新聞東京本社 論説副委員長
島田	京子	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 専務理事
高橋	陽子	公益社団法人 日本フィランソロピー協会 理事長
中村	利雄	日本商工会議所 専務理事
堀田	力	公益財団法人 さわやか福祉財団 理事長
松岡	紀雄	神奈川大学 名誉教授
大前	孝治	社団法人 全国信用金庫協会 会長
服部	順一	信金中央金庫 副理事長
長谷川	圭志	社団法人 全国信用金庫協会 広報委員会 委員長

**【各賞の内容】**

**会 長 賞**・・・活動の社会的意義、地域との一体感、地域社会に与えた影響等を総合的に判断し、Face to Face 賞または地域活性化しんきん運動・優秀賞の受賞候補活動の中から最も優れた活動に対し与えるものとする。

**Face to Face 賞**・・・地域金融機関にふさわしい、地域社会に溶け込んだ、地域の方々との一体感を深めることに寄与した活動および地域金融機関の社会貢献活動として今後の取り組みが期待され、奨励される活動に対して与えるものとする。

**特 別 賞**・・・活動期間は短期間ではあっても、近年、関心の高い環境・社会問題への取り組み、災害復旧支援など、関係者や地域社会に大きく貢献した活動等に対して与えるものとする。

**地域活性化しんきん運動・優秀賞**・・・地域社会と中小企業の再生・活性化をめざす活動のうち、各々の地域社会の実情と信用金庫の特性に合わせたユニークで、他の範となる活動に対して与えるものとする。

**個 人 賞**・・・個人あるいはグループの取り組みで、信用金庫職員として他の範となる活動に対して与えるものとする。